

アンティーク時計学叢書

# ブレゲの生涯

*THE LIFE OF BREGUET*

デイヴィッド・サロモンズ 著

*SIR DAVID L. SALOMONS, 1921*

フュゼ



## 本書について

本書は、デイビッド・サロモンズ卿 Sir David Lionel Salomons (1851-1925) が自身の蒐集品をもとに最晩年の1921年に著した『BREGUET』を復刻し、あわせて一部を抄訳したものである。この本が登場するまで本格的なブレゲ研究書がなかったのは、ブレゲ自身がしたためた本や資料がほとんど存在せず、当時から高級品だったブレゲをまとまったサンプル数そろえるという困難を、誰かが実行する必要があったからに違いない。

この本は、まずサロモンズ卿とブレゲ時計との邂逅にはじまり、ブレゲに関する基礎データなどをまとめ、最後にサロモンズ卿自身が収集した貴重な87本のコレクションの仕様や特徴をまとめた図版部などから構成される。尚、この本編に加えて『SUPPLEMENT』という補遺があり、これら二冊で一体というべきだが、本編後半にもたくさん情報が追加されており、構成上かなりつぎはぎな感じは拭えない。本書は一次資料として位置づけられる原文テキストについては見通しをよくする再構成だけにとどめ、抄訳の部分はわかりやすく一貫性のある体裁となるよう、一步踏み込んで編集している。

なお図版については印刷品質を鑑みて後出の書籍に譲ることとし、代表的なもの相互参照されたものだけとした。ブレゲについてもっと踏み込んで知りたい方には、末尾にまとめておいた新しい著作を参照されることをおすすめする。拙い訳出ながら、この本の全体像がつかめるだけの部分はカバーしたつもりなので、読者の一助になれば幸いである。

訳者 識



Institut Royal  
de  
France  
Académie des sciences (Mécanique)

**BREGUET,**  
(Abraham Louis.)

*Membre de la Légion d'honneur,  
du Bureau des Longitudes &c*

*Né à Neuchâtel en Suisse le 10 Janvier 1747, élu en 1816.*

ブレゲの肖像画（フロッジヤム社のラザフォード氏の御好意による）



著者所蔵のブレゲの胸像  
(Photographed from Bust in the possession of the Author)



# 目次

本書について	3
❀❀❀ 抄訳の部 (11-100頁) ❀❀❀	
著者の序	13
ブレゲとの出会い .....	15
ブレゲの経営 .....	23
販売証明書	24
社名について	25
ブレゲの綴り	27
ブレゲの生涯 .....	29
技術解説 .....	39
ウォッチケース	39
指針と文字板	43
テンプ	44
脱進機	44
輪列	49
特殊モデル	50

代表的作品の解説 .....	53
附属資料 .....	93
スースクリプション広告	93
モアネ事件	96
あとがき	97

❧❧❧ 再構成テキストの部 (101-278頁) ❧❧❧

NOTE BY THE AUTHOR	111
I. GENERAL AND PERSONAL .....	113
II. THE FIRM OF BREGUET .....	121
III. THE LIFE OF BREGUET .....	123
IV. TECHNICAL .....	133
WATCH CASES	133
DIALS AND HANDS	137
ESCAPEMENT	138
THE TRAIN	142
SPECIAL WATCHES	143
V. DESCRIPTION OF 93 WATCHES TAKEN FROM THEIR CERTIFICATES, WITH A FEW ADDITIONAL REMARKS OF INTEREST .....	147
PLATES	148
ADDENDA (SUPPLEMENT)	183



VI. BREGUET'S CLOCKS .....	195
VII. SOME OTHER TIMEPIECES .....	205
VIII. SUMMARY OF WATCHES .....	209
APPENDIX .....	215
NOTE ON BREGUET'S NAME	217
ADDITIONAL NOTE UPON THE BREGUETS	218
NOTE UPON BREGUET'S CERTIFICATES	219
BREGUET'S STRAIGHT LINE ESCAPEMENT	220
READING THE TIME ON A CLOCK OR WATCH	220
"L'AFFAIRE MOINET"	221
APPENDIX TO SUPPLEMENT (SUPPLEMENT)	223
NOTE ON CLOCK AND WATCH CONSTRUCTION	224
GENERAL	225
ADDENDA TO APPENDIX (SUPPLEMENT)	226
ADDITIONAL NOTE ON BREGUET'S BALANCES	227
NOTE ON BY BREGUET'S FIRM	228
"NOTICE" ISSUED BY BREGUET'S FIRM	231
"SOUSCRIPTION" WATCHES	255
BREGUET'S EXHIBITION, 1819	261
NOTES AND REMARKS (SUPPLEMENT)	275
参考資料 .....	279
参考文献	280
基本単位等	285
英仏国王の在位と和暦	286
コレクション番号について	287
底本と校正について	288

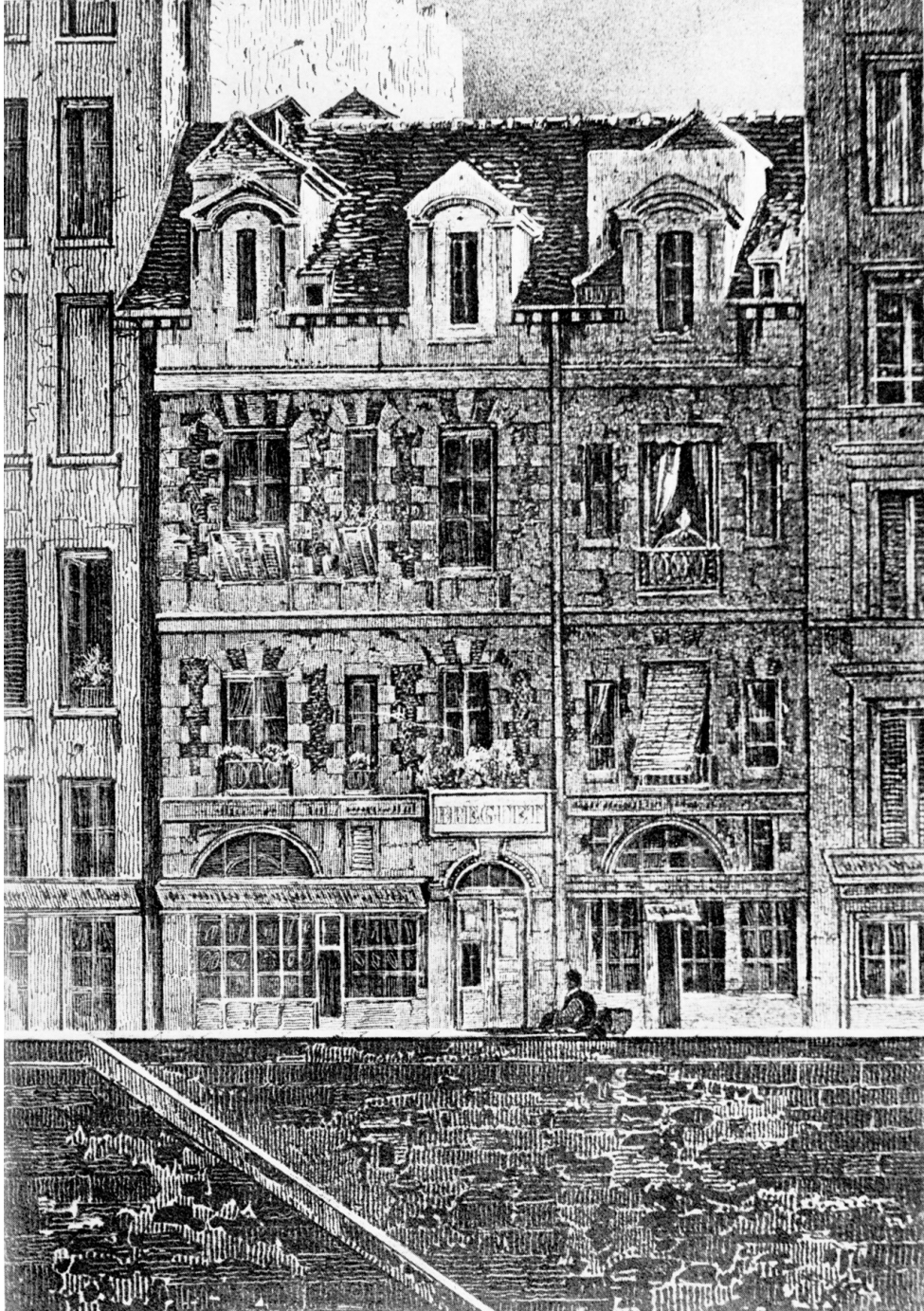


# ブレゲの生涯

—— 抄訳 ——

デイヴィッド・サロモンズ

1921



ブレゲのメゾン  
ケ・ドルロージュ 51 番地  
(ブレゲ社のヘンリー・ブラウン氏所蔵のエッチングから)

## 著者の序

この小著を上梓するにあたり、私がしたことといえば、ブレゲの生涯と作品にまつわる史実と資料を、ただ時間をかけてせっせと集めたに過ぎません。ブレゲの生き様についてわかっていることは少なくとも、作品の数は多くもありまた重要なものですから、調べてみることには意義があります。ブレゲが実際に生きた時代と書き手の時代には百年という隔たりがありますゆえに、間違いを避けることはまずできないでしょう。しかし同時に、事実の正確さは出来る限りにおいて、そうあらねばなりません。おそらくは、本書においていちばんの関心事となるのは、生き証人となっていま目の前にある、この私のブレゲ作品のコレクションでしょう。書籍に関しては、故ブリッテン氏の本、『ラルース事典』、ピエール・デュボアの1849年の『時計史』、そしてエルノフ男爵の本〔訳注：参考資料⑦～⑩〕などが見当たりますが、ほんの少ししか触れてありません。ロンドンのルロア商会のハル氏や、パリにあるブレゲ社の現オーナーであるヘンリー・ブラウン氏とそのご子息ジョージ・ブラウン氏には多大なご助力をいただき、ここに感謝を述べるものであります。しかしライフワークとしてブレゲ作品を研究され、ブレゲに関するパンフレットやさまざまの資料のご提供をいただいたロンドンのデソ

ッター氏にはことのほか感謝するものであります。とりわけ、これら時計作品の技術的なポイントを常々御教示いただきましたが、これは分解や研究に長い歳月をかけてこられた方でないと理解の難しいものです。ここに、今日ブレゲ作品が希少品となったわけがあり、また、未熟な時計修理師によって破壊され続けてきたひとつの理由があります。このようにして駄目になったブレゲ時計が、なんとまあ多いことでしょう。作品を改変してしまった持ち主は、ブレゲを越えたと信じて疑わないのです。

デイヴィッド・L・サロモンズ

1921年1月

## ブレゲとの出会い

ブレゲの名を知るのは、その作品においてのみです。文字としては何も残っておらず、風が異業種へと吹く時代にあって、時計学に大きな貢献を果たしたとされます。そのひととりに光を当てようとする場合、多くの書物をひもとかねばなりません、それでもほんの数頁か数語をえるのみなのです。ブレゲがどんな装置や機械を発明したかを語ろうとするなら、その仕事はさらに厄介になっていきます。故ブリッテン氏がその著書『Old clocks and Watches』などでブレゲに触れた部分のごくわずか。ブレゲ作品に関する書物をだれも書こうとしてこなかった。そこに私が本を書くべく求められるところがありますが、私の筆など発明家や芸術家の偉大さにくらべたら、なんと頼りないものでありましょう。

リファレンスとなる本が無かったわけは単純です。ブレゲとその会社作り出す品はどれも高嶺の花であり、製品の数も少なく、その最上の品にもなると、時計師でさえ完全に理解できる人が何人もいないからなのです。少なさ故に愛でる気持ちから、見る目のないお金持ちがブレゲ時計を集めるわけですが、その人達は一級品と二束三文の品の区別が付きません。このでの蒐集家をごまんといらっしゃる。古い名品を集めながら、色をつけた『図解ロンドンニュース』の絵と違いがわからない人のなんとまあ多いこと。たいしたよろこびも引出せずにお金を使うこうした愚かな人々も、世の中には役に立ちます。このような蒐集家は、現在と未来の世代によるこびをもたらすため、破壊からその価値を温存してくれる人なのです。筆筒の肥やしにしてい

る理由はちがうところにあるのかも知れませんが。いっぽう、自分がお金を出したものに、本当の意味で愛をそそげるコレクターは実に幸せな人です。己に悦びを感じるだけでなく、その知識が、多岐にわたる興味と実益を伝授するからです。

本書は友人らの求めに応じてしたためたものなので、ここで私が時計の収集に足を染めることになった経緯について触れておいてもよいでしょう。またそこには、些細な事が大きなことへと発展する教訓がありますが、いまの場合はある偉大な芸術家の品々を沢山保存するということになります。また、親御さんにとっては、子供の好みをおもんばかり、力づけてやるお手本ともなりましょう。私の場合は、挫かれることも励まされることもありませんでした。私は、自分の名前に叔父の名を継いでおります。叔父には子供がなく、私の両親も幼少時に亡くなっておりましたので、保護者は叔父でした。この叔父が政治の仕事に明け暮れていたせいで、私は自分のことは自分のやりたいようにさせてくれました。素敵な思い出の数々、私の船出にはそれほどの年月もかからず、なに憚ることもなく自分の思うがままにできたのです。私は『機械屋』になるべくして生まれました。機械屋になるのは、絵描きさんや詩人や音楽家になるのとおなじです。私が小さい頃の子供部屋というのは今のような『オモチャ屋さん』ではなかったですから、子供は幸せでした。普通のオモチャには目もくれませんでした。遊びの時間には、時計を作る器械や、建築用のレンガや工具一式といったもので頭がいっぱいでした。もう一つ、ほんとうに欲しかったものといえば……スターザムの《IOS.6D》という少年向けの化学セットでした。ブライトンのキングスロードにある薬局のウィンドウにいくつか陳列されていましたが、何年覗き込んでも、とうとうこのIOS.6Dにはお目にかかれませんでした。今その当時を振り返ってみれば、薬品を手になできなかった事は家族にとっては幸いだったことでしょう。とはいえ本当に欲しかったですから、いうなれば、欲しいと思う物がなにもなければ日常というのはとてつもなく平板になってしまうことでしょう。十四歳にもなると時計の機械の面白さを知り、時計を修理するちょっとした友人をつくって、夜な夜なお店にいけるように説得したりしまして、テン真などの工作や、宝石の修理を覚えました。自分の興味を追い求めている人はだれでもするように、出来のよい弟子だということを証明しま



すと、顧客の品の修理を自宅にたくさん預かって直させてくれました。私はお金をかき集めました、必要な工具はそれほど多くはありませんでした。夜になると私はクラークンウェルやソーホーをぶらつき、工具店を物色しながら店に入り、店の人はこんな臆病者の少年が有り金を注ぎ込むなどとは思いませんので、すぐに答えが出るような質問をするわけです。すると、みんな私に親しくしてくれました。チャーリング・クロスロードで覚えたイロハ、シャフツベリー・アヴェニュー、そしてクラークンウェルで磨いた腕。足しげく通った懐かしい思い出の場所が、かつて馴染んだ顔ぶれが、めくるめく蘇ります。

さて、いろいろあった数年間ははしょりまして、二十三歳かもう少し後のことです。ブレゲの名前がいつも尊敬をこめて語られるのは耳にしておりましたが、その作品にはまだ一度も触れたことはありませんでした。この頃リージェント通りのあるお店でブレゲのスリー・ホイール・クロックを見せてもらいました。値段は150ポンドとあります。身の丈を超えるという以上の代物でしたし、それが本物かどうかを見分けるだけの眼力などありません。頭のなかでいろいろと考え、買うのは別の人にゆずろうということにしました。さらに何年かが過ぎまして、パリの著名な時計師とブレゲについて話をしていた時です。その人が言うには、偽物というものはほんとうに多くて、本物とほとんど区別がつかないそうです。しっかりとした経験から判断がつくようになるまでは決して買わない、というルールを定めていたので、この種の時計を捜すことは「おあずけ」にしました。さらにその数年後、1915年か1916年でしょうか、ニューボンド通りにある有名なお店をたずねておりました。店の主人がブレゲ作の《自動巻》を見せてくれました。未熟な時計師が歯車を壊したということで、少し手直しする必要がある品です。その複雑な仕掛けやブレゲの物作りの美しさをこんこんと説明されます。私はこの時計を購入しまして、何時間もかけて調べました。これがきっかけで時計学の巨匠の作品に惚れ込むこととなり、ブレゲ作品ならなんでも興味をもつようになりました。これらは今では大変珍しい品となり、滅多にお目にかかれません。運も味方したのか、この時計を買ってまもなくのこと、クリスティーズで仕入れたものでしょう、ジョージ3世所有というもう一つの品を見せられました。裏がエナメルだったため、それはお断りしました

が、時計というものは日頃から身につけていないと楽しくないもので、遅かれ早かれこのエナメルは割ってしまうだろう、ということも承知しておりました。この時計は、結局アメリカへ行ったということです。

さて1917年になりまして土砂降りの5月3日のこと、リージェント通り近くの歩道から一歩奥まったところにある、かねてウィンドウを覗いたこともないお店を通り過ぎようとしておりました。ここは新しい宝石しか陳列していないのです。普通とは違った不思議な外見をしたものに目が留まり、その横の説明書きを見ますと名前が《マリー・アントワネット》とあります。もっとよく見てみようとしてウィンドウに近づいてみますと、これが、不幸な最期を遂げた王妃のためにブレゲが作った、あの傑作だとわかりました。結構な値段がついておりましたが、グロスヴェノア通りにある自宅へと歩きながら、ずっと考えておりました。自分に買う資格があるだろうか？ 私は座って手紙の返辞を書いておりましたが、あの種の時計は雨がやんでしまったらウィンドウから消えてしまうだろうという考えがチラチラと頭をよぎります。とにかく数字を伝えてみようとして心が定まりましたので、雨具をはおり、そのお店に引き返しました。店の主人はライフワークとしてブレゲ作品についてかなりの研究を積んでいると見受けられました。自分から数字を出すことは私の主義に反していたのですが、その時計が委託品であることを告げられると、いくらでもいいから提示額を言ってみればと言われます。その時計を調べると、もう完璧な品でして、明日は自宅にいますので、返辞を午前十時まで待ってくれるように告げました。翌朝の九時半になって、時計をもって売り主があらわれ、あと50ポンド弾んでくれれば手を打つと言います。その50ポンド上乗せについてとやかということもなく、小切手を切って時計を手にししました。あとで手放す段になった時の値から判断すれば、それは良い買い物だったことがわかりましたが。夜ごとこの時計を調べていきますと、この上ない複雑さ、汲めども尽きせぬ興味、時計メーカーでここまでもっていけるものはざらにないという結論になり、また、他のメーカー製品の経験値もぐっと高まりました。

注目のブレゲ時計というものは、みな人手を渡っていくものですし、この《マリー・アントワネット》もあの紳士の手を経てきたわけですが、そんな人は一握りなのです。こうにして私はこの人物の仲立ちで高級な品をいくつ

## 代表的作品の解説

※底本ではサロモンズコレクションの93本のウォッチと6台のクロックの全てに原寸大写真と解説が付くが、本書ではその代表的な作品だけを抄訳することにする。なお、コレクション番号については本書287頁を参照。

### コレクション番号とその特徴

#### ▶ウォッチ

- 3：摂政王のウォッチ
- 4：ルイ18世の真太陽時と平均太陽時のダイヤルを持つウォッチ
- 12：ア・タクト形式のウォッチ《モントレアタクト》
- 26：《十進化時間》ダイヤルのあるウォッチ
- 56：最高傑作《マリー・アントワネット》
- 63：《スースクリプション》
- 66：真太陽時と平均太陽時のダイヤルを持つウォッチ
- 73：クック大佐の極薄《ペルペチュエル》
- (90)：ヘンリー・ブラウン氏所蔵の《ギャルドタン》

#### ▶クロック

- 5：《パンデュール・シンパティック》親子時計
- 6：子午線通過計測用のアイピース

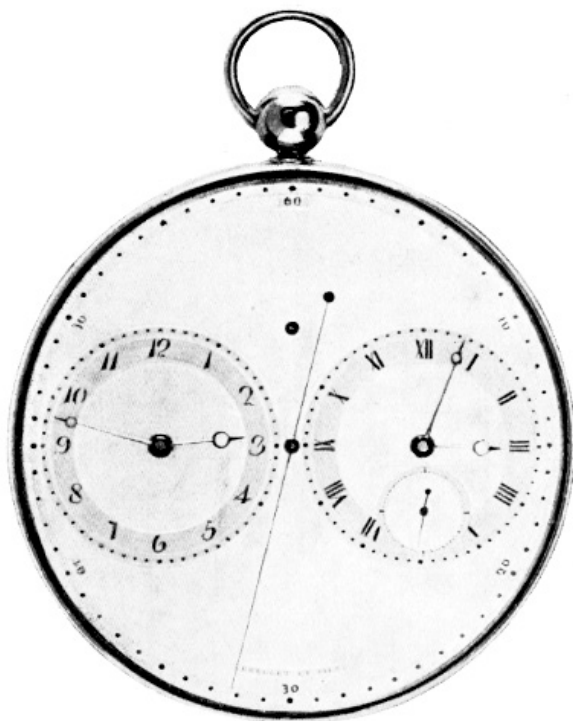
▶▶コレクション番号 ————— 3

販売証明書番号 ————— 2395

ウォッチ番号 ————— 2788

1818年10月2日、摂政王に7200フランで販売

解説：ゴールドのエンジタンケース、インナードームには近似差表のエン  
グレーヴィング、シルバーダイヤル、二つの文字盤はいずれも平均太  
陽時を示す。片方の文字盤はゴールド針で、中央秒針は歯車によって駆



No. 3.

Watch No. 2788.

前面

————— フェゼの既刊書より —————  
『アンティーク時計学』シリーズ（第一期六巻）

I 『時計発達史—校訂版—』

1924年 高林兵衛 著  
ソフトカバー271頁、A5判(21×15×1.5cm)、旧字旧仮名  
世界的に知られた、国内初となる本格的な和時計解説書の復刻。  
初版発行 2015年6月:ISBN978-4-9906922-6-1

II 『漏刻とルモントワール』

1820年 アブラハム・リース 著  
ソフトカバー195頁、A5判(21×15×1cm)  
リースの『百科全書』から水時計とルモントワール、及び脱進機を精選。  
初版発行 2016年3月:ISBN978-4-9906922-9-2

III 『ブレゲの生涯』

1921年 デイヴィッド・L・サロモンズ 著  
ソフトカバー290頁、A5判(21×15×1.5cm)  
ブレゲ研究必携、記念的私家版の基礎資料。テキスト及びその抄訳。  
初版発行 2016年4月:ISBN978-4-908795-00-8

IV 『マッジのタイムキーパー』

1763年 トーマス・マッジ 他著  
ソフトカバー184頁、A5判(21×15×1cm)  
経度法懸賞金にかけた幻のタイムキーパーの全貌を多角的に見る試み。  
初版発行 2016年10月:ISBN978-4-908795-01-5

V 『フック博士と時計学』

1696年 ウィリアム・デーラム 他著  
ソフトカバー140頁、A5判(21×15×1cm)  
懐中時計用の調速子や脱進機発展に貢献したフックの時計学を俯瞰。  
初版発行 2017年12月:ISBN978-4-908795-03-9

VI 『リピーターの歴史としくみ』

1820年 アブラハム・リース 著  
ソフトカバー142頁、A5判(21×15×1cm)  
複雑機構の代名詞リピーターの歴史と初期のメカニズムを詳細に解説。  
初版発行 2018年4月:ISBN978-4-908795-04-6

※訳者略歴：1964年三重県生れ。1988年名古屋大学理学部物理学課卒業、1990年同理学部修士課程修了。専門は高エネルギー物理学(トリストラン実験プロジェクト)。民間企業にてデジタル通信機器のプログラマを経てテクニカルライティングに従事。2012年末から《フュゼ》の名称で出版活動を開始。理工学書の翻訳等。浜松市在住。

アンティーク時計学

## ブレゲの生涯

### THE LIFE OF BREGUET

---

発行日	2021年 4月6日 オンデマンド初版 2016年 4月21日 初版	First Revision
発行者	フュゼ	FUSÉE
発行所	434-0031 浜松市浜北区小林450-1	Hamamatsu
著者	デイビッド・ライオネル・サロモンズ	David Lionel Salomons
訳者	松下 健治	MATSUSHITA Kenji
印刷製本	株式会社ブックフロント 176-0012 東京都練馬区豊玉北6-13-3 上野ビル4F	

FUSÉE <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/kenjim2/>

©2016 MATSUSHITA Kenji, All rights reserved. Printed in Japan.

ISBN978-4-908795-00-8 C0053 Print on Demand

---